

学校目標・経営方針	スペシャリストの育成とともに人間性を高め、地域社会を支える人材の育成
-----------	------------------------------------

山梨県立韮崎工業高等学校長 高野 修

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、総合的な人間力を高める
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現及び夢の実現に努める
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体を育む
	4 高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストを育成する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価					
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(3月1日現在)		
			具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果
1	基本的な生活習慣を確立し総合的な人間力を高める指導の充実	①PTAの挨拶運動の継続や職員からの積極的な働きかけによる挨拶の習慣付けに努める。 ②教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い等、継続的な指導に努める。 ③バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と「安全運転チャレンジ123」への参加による事故の撲滅に努める。	登下校時のあいさつの検証 各月ごとの数的推移 実施結果の検証	A	・毎月第1週をあいさつ運動週間として実施するとともに6月と11月にはPTAと協力してあいさつ運動を行った結果、生徒アンケートでは、80%を超える生徒が肯定的な回答をしている。 ・遅刻者の集計及び保護者への通知等の取組みにより減少傾向にある。 ・県下一斉運動に併せて登校指導等を行い交通ルールやマナーの徹底を図り、交通事故件数は12件で昨年より半減した。 ・80%の生徒が先生方はわかりやすい授業の工夫をしている高評価を得ているが、今後さらに教員がチームとして授業研究に取り組む必要がある。 ・90%の先生が補充的学習指導を行っていると回答しているが、生徒の家庭学習の取り組みが43%の生徒が肯定的な回答と低調である。 ・進路に関わる行事は年々増加しているが「試行錯誤の中で強化を図る必要がある。
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と生徒の学習意欲の向上に努める。 ②基礎学力が不十分な生徒への補充的な課外学習等に努める。 ③自己実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませ将来設計能力の育成を図る。	授業アンケートと授業観察 基礎力テストの結果の検証 アンケート及び進路実績の検証	B	・授業改善プロジェクトを推進するうえで、授業参観・全体研修会に加えて行事を設定して全校的な推進を図る。 ・各教科・科目の目標や評価方法の見直しを図りながら、わかる授業の実現に努める。 ・進学模試や小論文指導を実施し、その結果の活用と以後の学習について指導を前向きに進める。
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。 ②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、部活動の活性化を図る。 ③地域に開かれた学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	アンケート及び活動実績の検証 アンケート及び活動実績の検証 実施後アンケート結果	A	・高校総体において総合11位の成績を収めた。レスリング部、山岳部、スキー部が全国大会に出場したほか、野球部が春の選抜大会21世紀枠に推薦された。 ・太鼓部が芸術文化祭を受賞したほか、吹奏楽部、写真部も活躍した。 ・工業高校らしい学園祭に向けて企画運営の見直しを図るとともに、「開かれた学園祭」を目指して、地域に対して積極的な広報活動を行った結果、来校者数が増加した。 ・部活動の活性化を継続的に図り、主体的に部活動に取り組む生徒を増加させる。 ・工業高校としての特色を最前面に打ち出し、地域への浸透を更に図る取組を継続する。
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。 ②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。 ③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	実施後アンケート結果 取得実績の検証 取得実績の検証	A	・企業実習は、事前の打合せを強化し、連携を取りながら実施することができた。 ・ジュニアマイスターゴールドに9名、シルバーに9名の生徒が認定された。 ・企業、行政、学校関係者を交えた拡大評議員会を開催し、有意義な情報交換を行った。 ・本校初の技能士2級の合格者を出すとともに資格取得1000件突破を9年連続で達成した。 ・企業実習に関しては実施協力企業の開拓を一層進め、特に製造業を中心に進める。 ・進路実現、資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用を図る。 ・各種検定、資格取得の奨励と合格者増加に向けての指導の工夫を図る。
5					

学校関係者評価	
実施日(平成29年2月17日)	
評価	意見・要望等
3	・教育活動の成果が出てきているので、生徒に自信が出てきたため生徒の問題行動が減ったのではないかと、成果を出すまでの先生方の指導が大変である。オープンキャンパス参加者が100人を超えていることはよいことである。 ・生徒の通学路で道幅が狭く、なおかつ曲がっているのが前方が水らい箇所があるので交通指導を徹底し事故防止に努めてもらいたい。 ・学校評価が上がることで、良き人材も多く集まると思う。充実した環境の中で生徒個々の人間性、技術力のアップを目指して社会の役に立っていただきたい。 ・最近、あいさつが良くなっていると感じる。
4	・放課後の資格取得に向けて取り組んでいると考えると、一概に家庭学習時間が低いとは言えない。今後わかる授業の実現と生徒の学習意欲の向上に学校全体として取り組んでいただきたい。 ・就職の求人数とそれに応えている実績は素晴らしいものがある。また、学校評価を見ると85%の生徒が韮崎工業の教育活動に満足している。
4	・部活動、地域貢献活動など生徒の前向きな姿勢が感じられる。さらなる活躍を期待したい。 ・様々なコンテスト・競技、地域との関わりを通じ、学んだことが進路決定率100%という素晴らしい結果に繋がっています。それぞれに結果が出ており生徒達も充実感や達成感を感じているのではないかと思います。 ・部活動において、優勝するなどよく頑張っている。 ・学園祭等の学校行事において、仮説を立てて改善に向けて取り組んでいる。
4	・1年生のキャリア教育を充実させて、進路意識・目的意識を早い段階から持たせる取り組みが、卒業時のキャリア・アップにつながると思う。 ・資格取得、各種受賞等の結果を出している。それが良い見本となっており、学校が良くなる基本であると考え、地域・企業をコーディネートできるようにすれば良い結果となる。OBの方が間に入るのが良いのではないかと。 ・自分の所属する科(系列)に関連する資格をどれくらい取得しているのか、生徒の意識の中で将来に向けての考えで取得できるようにさらに工夫していただきたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

平成29年度版 改善計画

山梨県立韮崎工業高等学校

No	項目	現状と課題	H30年度に目指すべき状態	①H29年度に実施する内容 ②H30年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	(現状) 職員会議等の会議資料は事前に配付し、提案は要点のみ説明するなど効率的に進行するように努めている。 (課題) 時間短縮のため、内容を精選したり、根回しが必要である。	会議を精選(20%削減)し、会議時間の短縮(1時間以内)を図るための根回しの徹底。	①事前打ち合わせの励行に努める。 ①会議資料の事前配付にて一読する時間を確保する。 ①参集時間の厳守と終了時刻の設定をする。 ②会議(委員会)の精選を検討する。 ②会議・研修会の目的や内容の見直しを行い、効率よく効果的に実施するための方策を検討し、実施回数や時間の削減を図る。	
2	学校行事の負担軽減	(現状) 行事が多く、授業に影響してくることがある。 (課題) どのように行事を精選していくか。	教育目標に沿った内容から行事に優先順位を付け、単年度ごとに見直しが行える体制づくり。	①企画・運営マニュアル等を整備・改善し、次年度の業務量の軽減を目指す。 ②行事の目的や教育的効果を再検討し、廃止、縮減等による精選や実施方法の工夫に取り組む。	
3	校内組織の見直し	(現状) 分掌の細分化は仕方ないが、仕事が多岐化している上、仕事量に格差がある。 (課題) 分掌が多く、複数の分掌に所属している。	全教員が、同等の仕事量を行える体制作り。一人1分掌の校内体制づくり。	①一人ひとりに責任を持たせるように公務を割り振る。 ②分掌内だけでなく包括的に業務が特定の教員に過剰負担にならないよう、業務の平準化を図る。	
4	業務の効率化	(現状) 共同的な作業体制が成り立っていない部分がある。 (課題) 情報の共有はされているが、さらなる推進を図る。	紙ベースの資料削減(現状20%減)。	①②教材等をデータで共有することで、教員間の協働性を高める。 ①②分掌業務のマニュアル化、電子データの共有などにより作業効率を高める。 ①②グレープを活用する。	
5	部活動の負担軽減	(現状) 一部の教員に負担が集中している。 (課題) ひと月に、土日での完全休暇が一日もない状況もある。	ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を二日以上目指す。	①ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を一日以上目指す。 ②ひと月に、きずなの日を設定するとともに、土日での完全休暇を二日以上目指す。 ①②管理職は、指導回数が70回以上が見込まれる教員に対して、四半期ごとに部活動指導状況について確認を行い、指導助言を行う。	
6	地域人材の活用	(現状) 技能検定の指導が大きな負担となっている。指導時間が年々増加している。 (課題) 資格取得数、上級資格取得を争う傾向になりつつあり、放課後や休日等の資格指導が多くなり、負担が増えている。	職員全員が関わりを持ち、業務を分担している状態。 外部講師を活用し、求められる資格を必要な生徒に効率よく指導できる体制づくり。	①旋盤、フライス盤の指導は技能士の人材を活用することにより、負担を軽減する。 ②技能士の指導に立ち会う職員の負担が大きいため、仕事を分担し平準化を図る。 ①②部活動やものづくり人材育成に関する地域人材の登用を目指す。	

※達成状況: 次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった